

# 本校の地域連携・地域交流

山中湖村立山中小学校

## 地域の自然を学ぶ教育 「フジマリモ」学習会

### 1. 目的と経緯

1956年、山中湖で「フジマリモ」が発見された。フジマリモは非常に珍しい生物であり、現在は山梨県の天然記念物に指定されている。地域にこれほど貴重な生物が生息していたことは、子どもたちにとって大きな学びの機会であり、地域の自然を誇りに思う心や、環境を守る姿勢を育てる上でも重要である。そのような観点から、地域のNPO法人山中湖姫まりも湖援隊の協力を得て、山中小学校と東小学校では隔年で「フジマリモ学習会」を実施し、地域の自然環境への理解を深める取り組みを続けている。



### 2. 内容

当日は、3・4年生が体育館に集まり、3名の講師から貴重な話を伺った。最初に、フジマリモの第一発見者である亀田さんから、発見当時の状況について詳しい説明があった。マリモを見つけたときの驚きや、その後自宅で生育させるためにどのような工夫をしたか、またマリモが珍しい生き物としてどのように注目され、天然記念物に指定されたかなど、当時の経験に基づいたエピソードを交えて話していただいた。

続いて、国立科学博物館の辻先生から、マリモが生きる環境の特徴について科学的な観点から解説があった。マリモは水のきれいな場所でしか生きられないこと、光の量や水温など、生育に必要な条件が繊細であることなど、普段の生活では気付かない自然の仕組みについて学ぶことができた。子どもたちは、ここ山中湖の環境がマリモにとって大切な場所であることを改めて理解した。

### 3. 成果と課題

最後に、山中湖姫まりも湖援隊の皆さんから、マリモを守るために地域としてどのように取り組んでいるか、また今後どのような行動が必要なのかについて話があった。マリモを守ることは、単に一つの生き物を保護するだけではなく、山中湖全体の環境を守ることに繋がるという視点が示され、子どもたちにとって環境保全の意義を考える重要な機会となった。

子どもたちは、自分たちの住む地域に希少な生き物が存在していたことを知り、自然環境への興味や環境保護への意識を高めることができた。一方で、講師の話の中には専門用語や科学的な内容が多く、理解するのが難しいと感じる児童もいた。今後は、事前学習を充実させたり、子どもでも理解しやすい資料を準備したりするなど、学習会の内容をより分かりやすくする工夫が課題として挙げられる。